

N10b 中央大学望遠鏡 CAT による MAXI で検出されたフレア星の可視光測光モニター

三宅梢子、坪井陽子、飯田悠、渡邊千夏、秋山昌俊(中央大学)、藤井貢(FKO)、飯塚亮(JAXA)

2012年3月、中央大学後樂園キャンパス屋上に直径26cmのドーム型望遠鏡CAT(Chuo-university Astronomical Telescope)を設置した(詳しくは本季学会の坪井陽子、他の発表を参照)。

我々は全天X線監視装置MAXIを用いて、星からの巨大フレアを探索しており、MAXIで検出されるフレア星における(1)可視光帯域でのフレア活動、(2)黒点面積、に興味があった。よってCATを用いて、MAXIでフレアの検出された星のモニター観測を2013年11月から2014年1月まで行った。用いたフィルターはI,R,V,Hである。MAXIでは、2009年8月からの4年間でRS CVn型星8天体、dMe型星10天体のフレアを検出していたが、モニター時代にCATで観測可能なRS CVn型星はII Peg、HR1099、UX Ari、dMe型星はEV Lac、EQ Pegであった。MAXIによりII Pegからは8回、HR1099からは12回、UX Ariからは5回、EV LacおよびEQ Pegからは1回ずつフレアが検出されていた(2014年度春季天文学会、坪井、他)。